
仲間を愛し、学校を愛し、ともに成長しよう

前橋市立粕川中学校

■主 題 活力と潤いにあふれる学校をめざして
—ともに考え、導き合うピアサポート活動、リーダー研修会を通して—

- 校 長 進藤 清
- 生徒数 365名
- 学級数 11学級
- 執筆者 教諭 野尻 努 田川 正武
- 住 所 〒371-0127 前橋市粕川町西田面138
- 電 話 027-285-2027
- URL <http://www.kasukawa-jhs.menet.ed.jp>
- 研究所 前橋市教育研究所



1 はじめに

粕川町は、赤城山の裾野の南側に広がっている。粕川中学校の子どもたちは、この美しい自然を代表とする素晴らしい環境のもとで意欲的に学習活動に取り組んでいる。

その素晴らしさとは、例えば理解ある保護者のみなさんである。子どもたちのため、学校のために日々の学習活動にたくさんの協力をいただいている。

続いて、温かみのある地域の人たち。子どもたちを地域の宝として、常に見守ってくれている。

そして、培われた伝統。先輩方の輝かしい実績と活躍ぶりは子どもたちの活力になっている。

なにより素直で思いやりのある人柄の子どもたちに素晴らしさがある。

さて、人間はみな生まれながらにして、人との関わりを望んでいる。また、お互いを高め合い、充実した日々を過ごしたいと考えている。もちろん、子どもたちにおいても同じことが言える。

しかし、学校不適應やいじめ等の現状は今日的な課題となっている。粕川中学校にある、素晴らしい環境も、子どもたちの純粋な心も、お互いに高め合う場の設定と認め合い、分か

り合う心の交流がなければ育つものではない。本校で実施されている「学校を愛し、仲間を愛し、ともに成長する」事を目指す教育活動を紹介する。

2 実践例

(1) ともに学び合うリーダー研修会から ア 「リーダー研修会」の概要と目的

本校の「リーダー研修会」は春と秋の年に2回、土曜日に行われる。生徒会本部役員と各クラスの代表委員が「学校のリーダー」としての自覚や知識を養うとともに、学校をより向上させる事を目的として、議論を交わし合うものである。

イ 本年度の取り組み

5月16日(土)に前期の部が行われた。具体的な内容は、生徒会本部担当と代表委員担当教員によって、子どもたちの実態や学校の課題を踏まえて検討された。

本年度は、子どもたちの表現力に重点を置き、話し合い活動と個々の発表活動に十分な時間をとる計画を立てた。具体的な内容は次頁以下の図1に載せる通りである。

事前指導の場で、「今の粕川中学校に思うこと」という事前作文を当日への課題とした。

2009年度 リーダー研修会（前期）日程表

（事前）
◇ 事前作文の作成
 ・ 題名 今の粕川中学校に思うこと

時間	内容
8:50	公民館集合 会場準備
9:00	開会式 ◇ 司会 生徒会本部 ◇ 開式の言葉 ◇ 研修会について ◇ 校長先生の話 ◇ P.T.A会長の話 ◇ 諸連絡 ◇ 閉式の言葉
9:20	参加者のスピーチ 事前作文を発表して、課題を提案する
9:40	グループ討議① 「粕川中学校の課題は何だろう」 スピーチなどを参考に、四つのグループ（本部、各学年）で自由に討議を行う。
10:10	まとめタイム 討議内容を説明できるようにそれぞれがまとめる
10:20	学年を基準とした縦割りグループに再編成し、各学年での討議内容を紹介しあい、意見交換する。 進行は、生徒会本部が行う
11:00	四つのグループに戻り、学年や学校の課題を明確にする
11:50	グループ代表者による発表
12:00	昼食休憩
13:00	グループ討議② 「課題解決に向けて自分たちに何ができるのだろうか？」
14:40	事後作文作成
15:10	事後作文発表
15:40	閉会式 ◇ 司会 生徒会本部 ◇ 開式の言葉 ◇ 研修会を終えて 生徒会本部会長 ◇ 先生方からの話 ◇ 閉式の言葉

（事後）
◇ 担任による事後作文へのアドバイス

図1 前期リーダー研修会日程

「粕川中学校」そう聞くと、挨拶ができて、礼儀の正しい学校というイメージが強いと先生方によく言われます。もちろん、私自身もそう思っているし、みなさんも思っていると思います。しかし、今の粕川中学校は、地域、学校内での挨拶が少なかったり、返事の声が小さいといろいろな先生に注意されることが多くなりました。

私も、1年、2年、3年と進級していく内に挨拶が減ってきているなとつくづく感じます。「挨拶運動」をしても挨拶を返してくれる人が少なかったり、返してくれても声小さかったりと、前とは違う粕川中学校になってきている気がします。

私はそんなのいやだと思ふし、みなさんもいやだと思っているのではないのでしょうか。「礼儀」とは、挨拶から始まるのではないかと思いました。挨拶するには何が必要なのかと考えました。私が出した答えは「元気」です。元気があれば、挨拶を大きな声でできるのではないのでしょうか。今の粕川中学校には『元気』が欠けていると思います。挨拶から始め、前よりももっとすばらしい粕川中学校にしていきたいです。今日一日よろしくお願ひします。

図2 事前作文の例

事前作文は参加者全員が発表し、各学年、本部役員ごとのグループで自校の課題について

意見交換し、中心課題を導き出す。その後、本部役員を含めた縦割りグループに再編成し（ジグソー活動）、自校の課題について話し合いを深めた。



図3 事前作文発表の様子



図4 学年ごとの話し合いの様子

午前中の話し合い活動で見いだした課題について、午後の時間では解決の方策を話し合い、具体的な内容を全体に提案した。



図5 全体への提案の様子

この主体的な話し合い活動の中で、子ども

たちは自分たちなりのリーダー像をつかみ、「実現したい自分」「目標とする学校の姿」そして「自分の役割」を自覚していった。

昼食の時間帯や休憩時間にも自主的な意見交換が行われていた様子からもその意識の高まりが強く感じられた。

一日のまとめである事後作文の内容からもしっかりと伝わってくるものであった。

私は、今回のリーダー研修会の中で、リーダーというのは大変なんだと改めて感じました。話し合いをし、活発な意見が飛び交う中で、いかにその意見たちをまとめるかということや、出た案を実現する方法など、簡単には考えられませんでした。しかし、一つのことを深く突き詰めていくとどんどんいろいろな問題が出てくるのが、不思議とおもしろいということもわかりました。

それと同時に、自分の学年、クラス以外の新鮮な意見を聞いたとき、すごいなという気持ちが、強くありました。

また、学校生活のことを話し合ったときに、先輩が手本となれば、後輩も自然とそれを学び、真似をする。あこがれの先輩やそういう友達を見れば、見習いたくなるなど自分の意識のことについて考えさせられた部分もあります。

今年、2年生になり、後輩を持つようになった自分をもう一度見直し、これを機会に今の自分の意識を改善したいと思います。

そして、しっかりとしたあこがれの先輩を目指し、学校を良くする中で、今回のリーダー研修会での経験を生かしたいと思います。今日一日ありがとうございました。

今回、このリーダー研修会に参加したのは3度目ですが、今までで一番、自分の意見をしっかりとみんなに伝えることができた気がします。

私は、今日のリーダー研修に参加する前、事前作文の「今の粕川中学校に思うこと」について、たくさん当てはまることが出てきました。あいさつ、服装の乱れ、生活態度…

どれも改善しなければならぬ点がいくつもあります。私一人では、何の解決策も見つけることができませんでした。しかし、今回参加して、たくさんの人の意見や先生方のアドバイスを聞いているうちに、やっぱりどれも自分たち一人ひとりの「意識」の問題なんだと気づくことができました。そのみんなの意見の中に、自分にも当てはまる点がいくつかありました。私自身、まだまだ意識できていないところがたくさんあり、反省すべき点もたくさんあります。

今日のリーダー研修でそれを見つけることができました。ありがとうございました。

図6 事後作文の例

後半には、相手の目を見つめて積極的に話

す姿が見られるようになった。また、内容もより具体的に、自分たちのできることを語るなど、子どもたちの目の輝きから自信と責任、そして今後への意欲が伝わってくるように思えた。

ウ リーダー研修会を実のあるものにするために

事後作文にもあるように、リーダー研修会はたくさんの事に気づかせてくれる。この貴重な一日を、少しでも有意義なものにするために気をつけるべき事は、以下の三点である。

生徒に明確な目的を

「粕川中学校を大好きな学校にしたい」という共通の気持ちが積極的な話し合いを生み、心を一つにする。

教師はあくまでアドバイザーで

事前から事後までの指導の中で、「課題に気づくこと→課題意識を深めること→解決の方法を見つけること」を子どもたちの手で進めさせることが主体的な活動となる。

リーダー研修会を全体のものに

話し合われた内容は、学年集会、生徒集会で全校の生徒に紹介され、呼びかけられる。



図7 学年集会での発表の様子

リーダー研修会に参加した子どもたちの強い思いが全体のものとなる。集会で自分たちの考えをリーダーが伝えることで「仲間を愛し、学校を愛し、ともに成長しよう」という気持ちが全体のものとなっていく。

エ まとめとして

リーダー研修会は特別な存在の生徒が特別なことを行うのではない。みんなが気づいている、当たり前前に感じていることを声に出し、伝え合う活動を行うことで、仲間としての連帯感、同じ目標に向かう集団としての学校に近づく活動である。

子どもたち同士が、自分たちの気づきに、みんなの力で真正面から立ち向かう時間を持つことが、子どもたちの生活に「活力と潤いを持たせる」と感じるのである。

(2) ともに分かり合うピアサポート活動から

ア ピアサポート活動とは

ピア（仲間）サポート（助ける）とは、生徒が他の生徒をサポートする活動である。ピアサポートは、友達との関係、孤独、進路、性に関する悩みなどの80%を友達同士で相談し解決しているという調査結果をもとにカナダで生まれた。友達同士でお互いの悩みを解決していく力をつけることを目的として粕川中学校でも取り組みをして2年が経過した。

イ 本校における取組

粕川中学校では、毎年ピアサポートの研修（ピアサポートワークショップ）を8月と12月に行っている。参加する生徒はクラスの代表委員、部長を集めて行うことにしている。基本的にはすべて希望者だけで行いたいと思っているが、現在はリーダーになる生徒が相談を受けることが多いために各部の部長・委員会の委員長の生徒と希望者を集めて行っている。

ウ ワイド相談の概要

ワイド相談とは生徒同士で悩み解決への具体策を提示する公開の相談会である。本校のワイド相談は6月には3年生のピアサポーターが1年生に行い、2月には新1年生対象のワイド相談、3月には2年生を対象にしたワイド相談を行っている。このワイド相談を通して、個人個人でもっている悩みを共有することができ、生徒同士で解決の糸口を得ることができる。また、先輩がアドバイスをしてくれることで先輩が後輩のよき手本となり、また、後輩のよき目標になっている。



図8 ワイド相談の様子

僕は相談することはなかったのですが、他の人が質問をしてその返ってくる言葉を聞こうと思いました。本当に緊張している姿もわかった中でわかりやすい言葉を返してくれたので本当にありがたかったです。ピアサポーターの先輩が言ってくれた言葉は「ああ、そうすればいいんだ」「そうやればいいんだ」とわかりやすく説得力もあって「そうやってみようかな」などわかりました。まだ、僕たちがわからないことを、3年生は何でも知っていて、僕たちが3年生になったらそういうこともわかるのかなと思いました。そして、僕たちが3年生になったら1年生に教えてやりたいと思いました。

図9 ワイド相談に参加した生徒の感想

ピアサポートのワイド相談に参加して、私は悩んでいたことがたくさんあったのですが、たくさんの人の前で言うのはちょっと……。って感じで質問ができませんでした。でも私以外の人でたくさん質問してくれていたのよかったです。その質問の中に私も悩んでいることが入っていて、とても助かりました。それに答えてくれた先輩達もあんなにたくさんの方がいるところで自分の意見をたくさん言ってくれていてうれしかったです。私だったらあんなふうになんか人の前に立って言うことはできません。なので先輩たちはやっぱりすごいんだなと実感しました。私はこのピアサポートのワイド相談の時にピアサポートっていいなと感じました。

図10 ワイド相談に参加した生徒の感想

エ ピア・サポートワークショップの概要

1. 日時 平成20年12月26日
2. 会場 粕川中学校 会議室
3. 対象 ピア・サポーター及び希望者
4. 指導者 粕川中学校職員

5. ねらい

生徒の援助者としてのピア・サポーターに必要な基本的な知識や、基礎的な技法について、体験的な学習を通して学ぶと共に、学級のグループ活動のリーダーとして必要な技法を身につけ、あわせてピア・サポートチームの仲間づくりをすすめる。

6. 日程及び内容

12月26日(金)

集合・準備：午前8時30分

8:50 受付

9:00 開会行事

開会

挨拶 ピア・サポートチーム代表

校長先生のお話 学校長

ワークショップの意義

9:20 「リレーションづくり」

(構成的グループエンカウンター)



図11 リレーション作りの様子

10:00 「自分を知る」

<エゴグラムの実習>



図12 エゴグラムの解説の様子

10:50 休憩

11:00 傾聴訓練

「ピア・サポート活動の基礎」



図13 傾聴訓練の様子

11:50 【昼食・休憩】

12:50 「解決をめざす相談」



図14 課題解決の相談の様子

13:50 限界と守秘義務について

14:00 休憩

14:10 個人プランニング



図15 個人プランニングの様子

14:40 グループ協議

「わたしたちのできるピアサポート活動」

15:10

「ピア・サポート活動に期待する」

15:20 閉会行事（修了証書授与）

職員が講師になって人と人との関わりかたを学んだ。生徒は真剣に職員の話の聞いたり、体験をした。

今回、ピアサポートワークショップに参加させていただきとても充実した時間を過ごすことができました。正直、自分自身思いやりの心が全くといっていいほどなく、「ピアサポーターに向いていないのでは？」とっていました。実際、今回行ったエゴグラムで思いやりの心がないことを改めて知り、「やはり向いていない。」とっていたとき、先生に「向き、不向きではなく、君の仲間を支えようとする気持ちが大切なんだよ。」と言われ、がんばろうという気持ちになることができました。今回のワークショップを通じて、ピアサポーターとしての自覚を持つことができました。

ありがとうございました。

最初は参加しようと思っていたのじゃないけど、参加してよかったと思います。今回のピアサポート活動を通して、いろいろなことを学ぶことができました。一つ目は信頼です。信頼するということとはとても大切だと思えます。だから僕は、信頼されたい人になりたいと思います。二つ目は相談してきただけではなく、その場で解決策を考えてその人の力を引き出すということがわかりました。三つ目は話を聞く態度です。話をしている人がいやな気持ちにならないように話したくなくなったりしないようにしたいです。そして、このことを生活に生かしていきたいです。今日たてた目標が達成できるように計画どおりにしていきたいです。そして、いろいろな人の力になってあげたいです。

図15 ピアサポートワークショップに参加した生徒の感想



図16 ワークショップの様子



図17 ワイド相談の様子

オ まとめとして

「ピアサポート」の名称や活動内容を理解する生徒が増えてきた。また、自らピアサポート活動に取り組みたいという生徒も多くなった。これまでは代表委員と各部活の部長・委員会の委員長をピアサポーターとしてきたが、今後は希望者が中心となったピアサポートワークショップにしていきたい。希望者が多くなり、自主的にワークショップに日常参加する意識が高まることで相談活動が教室のいろいろな場面で見られることを願っている。そして、このピアサポート活動を通して、ピアサポートの精神を生徒の心の種として植え付け、生きる力につながってほしいと思う。